

私のおすすめ この1冊！

セルフケアの定着を目指して 景山歯科医院のブラッシング指導 ——33 症例から導き出す臨床のポイント

景山正登・景山亜由美・飯田しのぶ・小池里江・田中浩子 著

A4 変判・80 頁・定価（本体 4,000 円＋税）
2014 年 5 月 21 日 ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

三上 直一郎

（東京都東村山市／ミカミ歯科医院）



予防に根差した歯科診療を熱心にされている景山正登先生と医院のスタッフとで、このほど医院の柱の 1 つとなるブラッシング指導をまとめた本がヒョーロン社から出版されました。

ブラッシング指導に関する知識の整理にもなる内容ですが、景山歯科医院のブラッシング指導の全体像、診療に対する姿勢があらわされています。本書の中には多くの症例が示されて、景山歯科医院での指導の様子が読み取れます。さらに、これら 33 症例の行間からは、患者さんの抱えている問題点、その対応策の指導内容、指導のポイント、そして患者さんの受け止めようなどが感じられます。それらをじっくり読み取っていただけると、読者の皆さんの参考になるのではないのでしょうか。

患者さんと一緒に考えていく

一人一人の患者さんに合った指導をするためには、患者さんの抱えている問題点を、患者さんとの会話や口腔内の情報からの確にとらえることが、まず必要です。そしてその解決策を簡潔に示せてこそ、患者さんはこちらを向いてくれます。それも指導者の立場からの発想ではなく、患者さんの身になって一緒に考えて

いくことが、指導を成功に導いてくれると思います。そのあたりを読み取っていただきたいと思います。

チーム医療としての取り組み

さらに注目すべきは、医院全体が 1 つのチームとしてそれぞれの患者さんに関わっている医院の姿・チーム医療が示されていることです。景山歯科医院での Dr. の役割、Dt. のなすべきこと、Dh. の患者さんへの関わり方、それぞれが各自の役割をわきまえ、患者さんとの位置関係で患者さんを支えていく姿が示されています。お互いの力を信じ合ってこそ、チームとして成立する姿だと思います。

この景山歯科医院のチームの力は一朝一夕にできたものではなく、長い時間をかけてできあがったものでしょう。残念なことに、チーム作りは本を読んで真似しただけで実現できるものではなく、それぞれの医院で培っていくしかありません。

セルフケアの定着を目指す意義

もう一点、この本の副題にもなっている「セルフケアの定着を目指して」ですが、これまた難しいテーマです。多くの患者さんは、通院中は指導されるまま治療のため一生懸命

指導に従い努力してくれませんが、通院が途切れると元に戻り、再発し、再来院する、といったパターンが多くみられます。それを、悪化することなく再来院してもらうために、このセルフケアがどうしても必要になってきます。そこへ向けての指導には、治療のための指導以上にもう一工夫加えた指導が必要になってきます。

そのためには、『歯科医院と患者さんが一緒になって治した』ことを実感してもらうことが必要です。さらに言うならば、患者さん自身が指導を参考に『自分で治した』と感じてもらえると、セルフケアは定着します。『自立した患者さんを育てる』ということです。

そのための工夫が、症例報告の中にちりばめられています。説明をよく行い、写真を使いながら歯肉の改善を実感してもらうなど、患者さんに何回も丁寧に示し続け、支え続けて可能となることではないのでしょうか。うまく伝わらない時は指導者を代えてでも伝える努力。これも、チームだからできることなのでしょう。

この本は、ぜひ、何度も読み返すことをお勧めします。そうすると、この本の真価がみえてくると思います。